

南仏治安情報（2011年8月）

■プロヴァンス地方

1. 本年上半期におけるブーシュ・デュ・ローヌ県の犯罪が増加傾向

警察の統計によると、マルセイユ市を含む県内で全体的に犯罪の発生が増加傾向にあります。2011年1~6月には前年同時期に比べ、暴力を伴った窃盗事件が23%増加、特に武器を用いた強盗事件が県内で18%（479件、前年403件）マルセイユ市内では40%増加（289件、前年206件）、空き巣被害が14%増加しています。唯一車両放火だけが4%の減少を見せてています。

2. 武器を用いた強盗事件が多発

8月には地方紙が報じただけでも商店等への強盗事件が25件発生しました。その内14件はマルセイユ市内で発生しましたが、他にもAix-en-Provence、Vitrolles、La Ciotatなどでも複数の事件が発生しました。犯人は2~6人組で厳重に武装している場合が多く、宝石店や銀行、現金輸送車などを襲い多額の被害が出ています。

3. Porte d'Aix周辺の治安悪化

マルセイユ市2区Porte d'Aix周辺では、麻薬取引、偽物を扱う市場など不法滞在者による違法行為が問題となっています。Vinci Park駐車場が不法滞在者に乗っ取られたため、8月には一斉取締りおよび強制退去が行われました。国外追放も実施されますが再び同様の事態になることは否めず、当地区の治安悪化は避けられません。当地区的立入りにはご注意ください。

4. マルセイユ市の大気汚染が悪化

夏季には特に大気中のオゾン濃度が高まるため主要道路で速度規制がなされていますが、マルセイユ市はヨーロッパの各都市の中で筆頭に上がるほど大気汚染濃度が高いことが明らかになりました。研究者および医師団による近年の調査の末、排気ガスに含まれる微粒子が体内に入ると平均4~8ヶ月寿命を縮め、近年2倍に増加した子供の喘息の15%はオゾンによる影響が強いと考えられています。企業団体を含め各個人の注意が喚起されています。

■コートダジュール地方・コルシカ島

1. 浜辺での窃盗事件が多発

ニースの海岸は観光客や海水浴客で賑わいますが、それに伴い窃盗事件も増え今夏は272件（前年246件）発生しました。海水浴中に浜辺に置いたままの荷物は非常に狙われやすいため、警察から注意が促されています：貴重品や身分証明書などはホテルもしくは自宅に置いておく、財布・携帯電話・宝飾品等は目立たぬよう隠しておく、手荷物から目を離さない、万が一離れる場合は付近の人に監視を依頼する等十分ご注意ください。

2. 空き巣の被害が減少傾向に

警察の発表によると、2011年1月から8月19日までに起きた空き巣被害は、前年同時期に比べアルプ・マリティム県で14,64%の減少、ニース市内は前年より約600件少なく21%減少しました。これは留守宅パトロール強化「Tranquilite vacances」や市内650箇所に設置した監視カメラのほか、近隣住人による相互の監視体制の成果によるものと考えられています。

3. 携帯電話の盗難を避けるため

軽量で多機能な携帯電話は窃盗・転売のしやすさから頻繁に狙われています。ニース市内では8月に78件の被害届が出されました。警察は人混みの中での使用やレストランのテーブル上など目立つところに置くこと、個人情報の登録等を避けるよう呼びかけています。また購入後のPINコードの変更、盗難の際電話をブロックできるIMEI番号の確認も促されています。

4. コルシカ島内の殺人・爆破事件

Ajaccio市では7月29日島外出身者がディスコ帰りにナイフで刺殺される事件が発生しました。8月1日にはProprianoで刑務所から出所直後の男性が射殺、Porte-Vccchioでは12日にバカンス中の会社経営者男性が自家用ヨット上で射殺されました。またCalenzanaで24日夜市役所所員宅が爆破される事件がありました。いずれも犯行声明などは出されていません。

■ミディ・ピレネー地方

1. 宝飾品を狙ったひったくりに注意

金属価格の高騰が続く中、8月上旬に金の値段が1kgあたり39000ユーロで取引されました。フランスで取引される金の60%は既存の宝飾品によるものだそうで、その中に含まれる偽品も多いと思われます。2010年にはひったくりの被害が全国平均で7.9%増加しており、Hérault県でも8.3%の増加が見られています。宝飾品のひったくりには引き続きご注意ください。

2. 麻薬取引の新手口

トゥールーズ市Bagatelle地区では以前より麻薬取引が多く見られていましたが、8月に18歳から39歳の男6人が逮捕されました。このグループは低所得者住宅地区の建物前で待機し、ファーストフード店のドライブインのように、客が車を降りることなく麻薬の売買をしていました。組織的な犯行のため、今後も同様の取引が行われる恐れがあります。

3. 空き巣被害への対策

オート・ガロンヌ県ではトゥールーズ市をはじめ多くの空き巣被害が発生しています。2011年1月から6月末で6000軒の家屋や商店が、特に家屋では一日平均19件の被害が見られています。犯人はドアや窓を破壊したり、ドライバーなどで鎧戸の鍵を外したり、夜間に鍵をかけ忘れた窓などから侵入します。防犯アラームも効果的ですが、留守中の郵便物の取り込み、鎧戸の開閉や異変がないかの確認を、隣人や知人に頼むのが最も効果があるようです。

4. ツマアカスズメバチで初の死者

以前にもお伝えしましたが、フランス南西部ではVespa Velutina（通称Frelon asiatique、日本名ツマアカスズメバチ）が多く観測されています。8月にはLherm在住の38歳男性が庭でバーベキュー中に刺され数分後に死亡しました。猛毒のある蜂ではありませんが、被害男性が2週間前にも刺されたことがあったため、アレルギーショックを起こしたと見られています。十分ご注意ください。

* 以上の治安情報は、当地方紙等から得られた情報に基づくものです。